

令和8年度
後期 講座

歴史文学塾

◎ハガキによる事前申込制

◆受講料

原則、五回分二千八百円を前払い
定員 先着 百名

◆申込み

募集期間 七月二十日～八月十日

ハガキに「歴史文学塾」、〒、住所、
氏名(ふりがな)、年齢、電話番号
をご記入の上、お申し込みください。

◆問合せ・ハガキ送り先

TEL 080-4390-3591

宇治市民大学歴史文学塾事務局 新井
〒611-0031

宇治市広野町宮谷34-127

特例…席に余裕がある場合に限り、各回単独受講
できます。(先着順、当日会場で受付け。)

受講料…各回 千円)

「ゆめりあうじ」に専用の駐車場はありません

テーマ 「異色の大王、継体天皇のすべて (その2) ～出自、業績、埋葬地～」

講師 高槻市文化財アドバイザー 森田 克行さん

9/17(木)	古代東アジアの「ウ」と「ウカイ」の用字を読み解く ～王権祭祀としての鵜飼儀礼～
10/15(木)	母子猿の参列と黥面人物の不存在の意味 ～殯宮での猿女君の先駆けと神聖性～
11/12(木)	水運王・継体と倭王権の海神 (その1) ～難波津と住吉神～
12/10(木)	水運王・継体と倭王権の海神 (その2) ～大山積神と宗像神～
1/14(木)	継体政権による九州制圧とその後の展開 ～「磐井の乱」の考古学～
10/25(日) 別途募集	【座学と現地見学】史跡公園「いましろ 大王の社」の見学 ～今城塚古墳と古代歴史館の見学と臨地講演～

講座時間 10時～11時半 (但し、最終回 1/14 (木) は 10時～12時)

●講座のねらい、ポイント *裏面に各演題ごとの「ひとこと」を記載。

令和7年度前期の「異色の大王、継体天皇のすべて」(その1)に続く第2段のシリーズ。真実の継体陵である今城塚古墳の発掘調査で判明した新事実を踏まえた最新研究をお話します。9月、10月は埴輪祭祀場でみつかった鵜と猿の埴輪の意味するところを探り、11月、12月は水運王・継体天皇の時代の瀬戸内航路を守る海神について洞察し、1月では古代最大の内乱である「磐井の乱」の意味合いを考えます。また10月に今城塚古墳を実地見学します。森田 克行

★当期に限り、会場が「(JR 宇治駅前の) ゆめりあ うじ」
に、「開催曜日」が「木」に変更になります。*これまでの
会場「生涯学習センター」は、改修工事の影響で約6か月間休館となるため。

宇治市民大学講座

市民による、市民と地域のための大学



主催 共催

宇治市民大学運営スタッフ会
宇治市生涯学習センター

講師からのひとこと

森田 克行さん

9/17 シリーズ今城塚古墳埴輪祭祀場の最新研究④

古代東アジアの「ウ」と「ウカイ」の用字を読み解く～王権祭祀としての鵜飼儀礼～

太田茶臼山古墳(現継体天皇陵)から出土した日本最古の鵜飼埴輪の検証を契機に、古代の中国と日本の「ウ」と「ウカイ」を表示する漢字の用法を広く渉猟、その用字や表現方法の違いから、東アジアにおける鵜飼文化の様相に迫ります。あわせて日本列島における鵜飼の儀礼が古墳時代の王権祭祀として整備される過程を追究し、ひいては「記紀」、「万葉集」などの諸記録から琵琶湖・淀川水系における宮廷鵜飼に話をつなげます。

10/15 シリーズ今城塚古墳埴輪祭祀場の最新研究⑤

母子猿の参列と黥面人物の不存在の意味～殯宮での猿女君の先駆けと神聖性～

今城塚古墳から胴部を欠失するも、霊長類の五指を表現した希少な獣脚埴輪が出土しました。この獣脚について、匍匐礼をあらわす人物の脚部とみるか、あるいは猿の脚部とみるか、長らく決着しませんでした。最近になって、奈良県天理市の小墓古墳で獣脚埴輪が検出され、同時に、それまで不明であった胴部が確認され、雌猿であることが確定しました。こうした雌猿が殯宮儀礼を再現する埴輪祭祀場に参列する意味合いについて考えます。

11/12 水運王・継体と倭王権の海神(その1) ～難波津と住吉神～

淀川・木津川水系を重視した継体天皇は、楠葉で即位し、やがて筒城、弟国へと遷都しました。とりわけ淀川河口部に設営されていた倭王権の直轄港の難波津を再整備はよほど重大で、安全航海をつかさどる住吉三神はそのままだに、その管理豪族を安曇氏から津守氏に交代させるなど、大鉦を振るいました。その目的は九州の大豪族である磐井を屈服させるための大船団の派遣にありました。こうした差配は水運王継体ならではの考えられます。

12/10 水運王・継体と倭王権の海神(その2) ～大山積神と宗像神～

兵員六万の大船団を瀬戸内航路で北部九州への派遣は大変です。通常は四国地方の北岸や中国地方の南岸を伝い渡るのですが、大軍の場合、とくに難所の芸予諸島を大軍が突破するのは至難の業。倭王権はその対処に大山積神を摂津御(三)島から急遽遷座し、降臨させたと思われます。また九州島東部の倭王権の橋頭堡ある宗像地域にも挺入れし、大船団受け入れを促しました。「磐井の乱」の前夜には、物部連鹿火も合流したことでしょう。

1/14 継体政権による九州制圧とその後の展開 ～「磐井の乱」の考古学～

『記紀』や『筑後国風土記』の記述から磐井の乱の主戦場は筑後川沿いの御井郡(現、久留米市の東方)あたり。倭王権軍は、福岡平野を南下する部隊と阿蘇ピンク石石棺の流入経路をもとに策定した有明海・筑後川ルートでの二軍編成で磐井を追い詰めたと思われる。岩戸山古墳には打ち割られた石人、石馬とともに地元産の人物埴輪が立て並べられる。乱後、倭王権が九州の制海権を奪取し、大形石棺が初期構造船で舟運された。

《別途、9月から募集案内予定》

10/25 座学と現地見学 現地 13時集合 13:00～15:00 会費 ¥500

史跡公園「いましろ 大王の杜」の見学

～今城塚古墳と古代歴史館の見学と臨地講演～

2011年に博物館を併設した今城塚古墳を整備した史跡公園「いましろ 大王の杜」が開園しました。今城塚古墳は学術的に真実の継体天皇陵とされ、公園では日本最大規模の埴輪祭祀場が復元され、墳丘にも立ち入ることができます。博物館は今城塚古代歴史館と称し、10年間にわたる発掘調査の出土品がところ狭しと網羅され、とりわけ復元された形象埴輪群は露出展示されていて、圧巻です。あわせて臨地講演をおこないます。